

献 辞

人文社会科学研究科教授 伊 藤 孝

加藤秀雄先生は、2016年3月末をもって本学を定年でご退職されました。先生は、1974年3月に法政大学工学部経営工学科をご卒業になり、その後トーヨーサッシ株式会社でのご勤務の後、1977年4月に東京都商工指導所に入所されました。以後1998年3月末まで20年余にわたり、中小企業に対する経営支援・指導にご尽力され、この間、中小企業の経営、直面する諸問題等についてのご論文、調査報告書等を次々に公表されました。

その後、先生は、1998年4月より2001年3月末まで九州国際大学経済学部、翌4月から2007年3月末まで福井県立大学経済学部、同年4月より2009年3月末まで大阪商業大学総合経営学部、のそれぞれにおきまして教授として研究・教育等に邁進されました。そして、2009年4月より本学経済学部教授として赴任され（2015年4月に組織変更に伴い人文社会科学研究科教授）、ご退職まで7年にわたり経済学部・人文社会科学研究科、および埼玉大学の発展にご尽力下さいました。

加藤先生の学術単著・共著、論文等の業績は膨大であり、ご研究の成果や特徴をわずか数行で取りまとめることは困難です。ただ、日本の産業と中小企業の発展の道を探ることをご研究の主要な課題とし、それを数多くの企業訪問、現場調査等を踏まえて論じられたこと、これに求めることは誤っているとは言えないように思われます。『日本産業と中小企業』（新評論、2011年）はその代表的な著書の1つと考えられます。さらに近著『外需時代の日本産業と中小企業』（新評論、2015年）で、この課題に一層深く切り込まれたと拝察しております。先生のご研究には、これまでしばしば主張された諸命題、例えば、「量産は海外で、国内は非量産と開発を」といった見解への、事実を踏まえた厳格な検証が見られます。中小企業研究の第一人者、加藤先生の今後のご研究の一層の飛躍を心より祈念する次第です。

教育の面でも、先生のご貢献は顕著で、特に博士前期課程・後期課程では、毎年多数の院生を主指導教員として育ててこられました。また、本学の管理・運営面でも、先生には学部・研究科の両アドミッション委員をはじめ数多くの委員をご歴任頂き、多大なご貢献を賜りました。さらに、先生は、自治体等の数多くの審議会の会長・座長としてご活躍され、社会貢献・地域貢献の面で著しい成果を残されました。

加藤秀雄先生のご尽力とご貢献にあらためて深く感謝申し上げる次第です。